＜小難しい学芸員のやさしい小咄＞

石　垣　の　石

私たちが地質調査をしようと思っても、崖（露頭）に植物が生えていたり、コンクリートや土に覆われていたりして、地層や岩石がほとんど露出してないことがあります。そんなときに、古い民家やお寺、神社、段々畑などの石垣を見ると、そのあたりに出ている岩石の思わぬヒントが見つかることがあります。古い石垣では近くの山から採られたり、川や海に落ちている石を使っていたことが多かったため、地域の地質が反映されていることがあるのです。人力でものを運ぶのが普通だった時代には、重い石を遠くから運ぶのは大変だったからでしょう。

泉南地域では、古い民家の石垣や土台などに和泉層群から切り出された砂岩が多く使われています（**図 1**）。これらは和泉青石と呼ばれ、かつては広く石材として使われていました。岸和田城の石垣も和泉青石です。和泉青石は加工しやすいのですが、一方で風化しやすく、近年では石材としてはあまり使われていないようです。ちなみに、和泉青石は、日本地質学会が選ぶ県の石で、大阪府の石として選ばれています（http://www.geosociety.jp/name/content0147.html#osaka）。

岸和田市河合町の鍋山周辺のごく狭い範囲では、田畑の石垣に黒い安山岩が使われています（**図 2**）。これは鍋山がこの安山岩（鍋山安山岩）からできているためです。鍋山安山岩は、かつては露頭が存在しないとされ、崩れた土砂に入っている石や石垣からその分布が推定されていました（市原ほか、1986）。現在では鍋山に登る農道脇などに露頭が確認されていますが（佐藤、2017）、石垣の石によってその地域の地質が明らかになったまれな例です。二上山のサヌカイトも現在ではほとんど露頭がありませんが、羽曳野市～太子町東部のブドウ畑の石垣ではたくさん使われています（**図 3**）。ブドウ畑の石垣には、サヌカイトだけでなく二上山周辺に分布する様々な火山岩や凝灰岩、花こう岩が使われています。

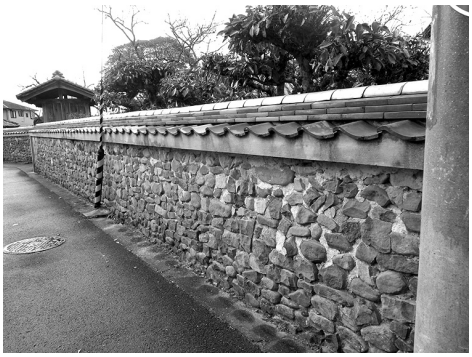

図 1：和泉青石が使われている石垣（岬町淡輪）。

現在では、石垣などに使う石材は、国内外の採石場から運ばれた、どこでも同じような種類の岩石（花こう岩が多い）が使われることがほとんどです。岸和田城の石垣も、近年補修された部分では花こう岩が使われています。石垣の石も、多様性が失われてきたといえるかもしれません。

とはいえ、石垣の石を見て歩くのは、その地域の岩石を知るのに最も手軽な方法です。石垣だけでなく、古い道標や墓石、石灯籠なども地域の地質を反映していることがあります。でも、決して石垣の石をハンマーでたたいたり、抜き取って持ち帰らないようにしてくださいね。

文献

市原　実・市川浩一郎・山田直利，1986，岸和田市地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，148pp.
佐藤隆春，2016，鍋山の安山岩は岩頸か、溶岩か．Melange，15：1-4.

＜**中条武司**：博物館学芸員＞

図 2：鍋山安山岩からなる石垣（岸和田市河合町）。

図 3：一部にサヌカイト（矢印）が使われている石垣。太子町春日。